

2020年度 実績のご報告

奈良県立医科大学「未来への飛躍」基金は、
2020年で創設から6年目を迎え、
本学卒業生を始めとする多くの方々から
のご支援・ご協力により、総額約9億円
のご寄附をいただいております。
皆様からいただいたご寄附は、
基金の目的に沿って、大学・学生への支援等
幅広く活用させていただいております。

事業の概要

1 学生への助成支援について

学生が関係するところへの助成費用合計です。

【活用例】

国内外の研修への活動費

学生の支援を行う講座への活動費

医師・看護師・保健師の国家試験模試費用の支援

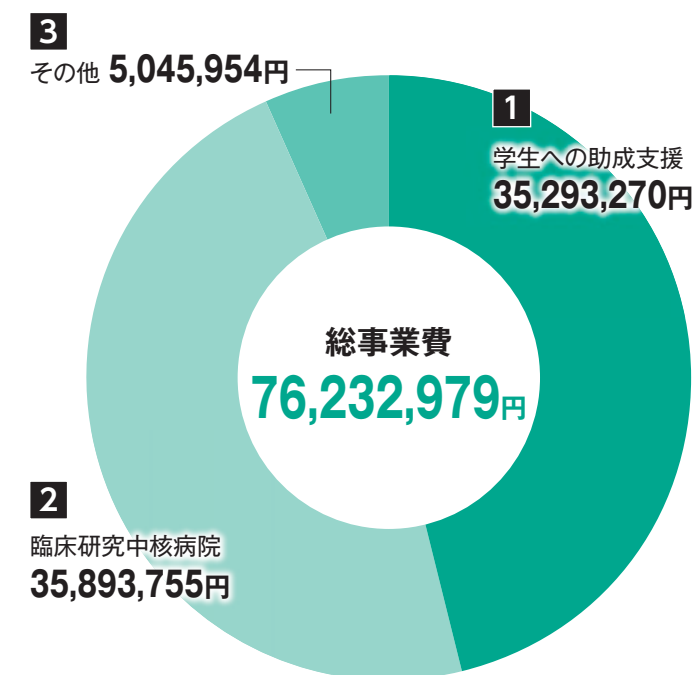
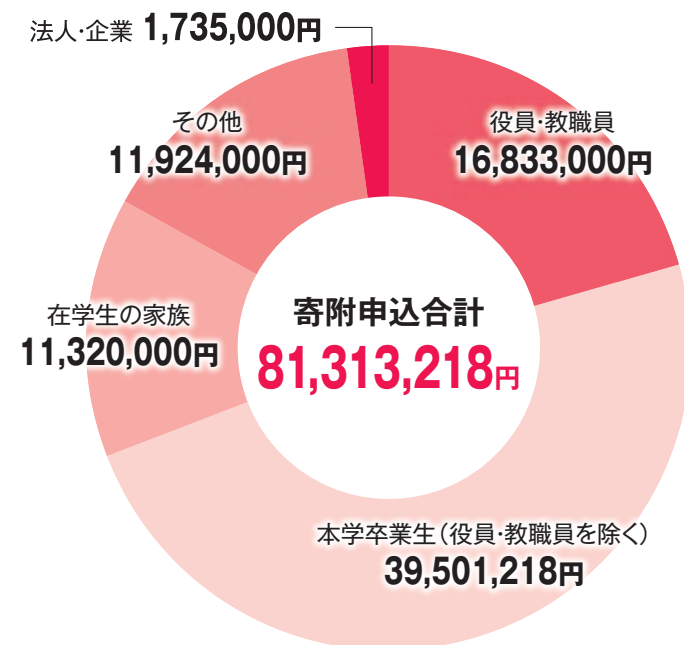
クラブ活動への支援

看護学生への実習着の授与

新型コロナウイルス対策遠隔授業支援奨学金 等

2020年度寄附申込額と使途実績

[差額は基金に積み立てています。]



2 臨床研究中核病院について

本学は臨床研究中核病院の承認取得に向けて体制整備*を行っています。承認を受けることで、本学が質の高い臨床研究を推進し、次世代のより良質な医療の提供を可能にすることが目的です。

※体制整備…承認されるためには大きく分けて能力、施設、人員要件の3つがあります。例えば、人員要件であれば経験年数が3年以上の臨床研究に携わる専従の職員の確保、高度な統計解析支援ができる職員の確保などがあります。承認を受けることで、本学に優秀な医療者の確保・育成、県民へトップクラスの医療の提供、高水準の医療技術の開発・集積が可能になります。

3 その他について

健康長寿イベント、事務費等の合計です。

2020年度 決算額

※詳細に関するお問い合わせ・ご要望は基金事務局までお願いします。

事業名	事業概要	支出額
大学院医学研究科博士課程 入学者に対する奨学金	希望者に対して入学金相当額及び授業料相当額を貸与	7,261,500円
	入学金相当額:282,000円×2人 授業料相当額:535,800円×12人+267,900円(6か月分)	
未来基礎医学への活動支援	学生の支援を行う講座へ運営費を助成	2,000,000円
	消耗品費、備品費、図書費、郵送料等	
医学科臨床実習への助成	医学科6年生対象の病院での臨床実習に対して活動費を助成	91,106円
	実施中止となり、宿泊先キャンセル料に使用	
国家試験対策への支援	医学科生及び看護学科生へ国家試験対策模試費用を支援	1,600,420円
	医師国家試験模試:1,199,500円 看護師・保健師国家試験模試:400,920円	
クラブ活動への助成	クラブ活動に必要な環境整備への助成	181,500円
	グラウンド整備費	
看護学科学生への支援	看護学科学生へ実習用白衣及びシューズを授与	1,383,549円
臨床英語での 教育活動への助成	医学・看護学の準備教育としての臨床英語の 強化を図るための講座の活動費を助成	2,175,195円
	講座職員人件費	
臨床研究中核病院 承認取得への 取組に対する助成	臨床研究中核病院承認取得に向けた体制整備(人件費)	20,893,755円
	臨床研究中核病院承認取得への研究費補助金	15,000,000円
健康長寿イベント事業への 助成	本学と地域社会との繋がりを強化するための取組である 健康長寿イベントへの助成	1,000,000円
新型コロナウイルスに 伴う学生への支援策	遠隔授業における環境整備等を行うための学生への支援	20,600,000円
	20,000円×1,030人	
募金推進事業	印刷費・郵送費・広報費等	4,045,954円
合 計		76,232,979円

活動事業のご報告

「未来への飛躍」基金の使途から一部ご紹介いたします。



教育・研究への支援

01 リサーチ・クラークシップ

医学科2年生を対象に、学生自ら直接専門領域の研究内容に触れ、さらには高度な実験科学の進め方を実際に体得するための授業です。研究活動の意義及びそれを支える研究者の心を理解して research mindを培うことを目的とします。国内及び海外の研究室での11週間の実習で、宿泊費の一部を本基金から助成しました。

2017年度活動報告より

理化学研究所 脳科学総合研究センター 精神疾患研究チームに研究実習留学しました。

(当時)医学科2年生 神保 ことり

このような実習を「未来への飛躍」基金で行かせていただいたことに関してお礼を申し上げます。まだ臨床の現場についてよく知ったわけではありませんが、研究者としての考え方、研究生活、最先端の研究、そして研究の世界全てに関してじっくり勉強できたことはとても良い経験になりましたし、自分も科学者の一員であるという意識が生まれました。また、今までは研究に関して興味はあったものの、進んでやりたいと思う程関心を持ってはいませんが、リサーチ・クラークシップを通じて、これからは何らかの形で研究に携わっていきたいと思いました。とてもありがたい経験をさせていただいたと思っています。



02 看護学科臨床研修 (国際看護論Ⅱ)

看護学科4年生を対象に、異文化における看護と医療の実際を海外研修において見学し、人間の健康と病が社会的・文化的に構築されたものであることについて理解を深めることを目的とした授業です。チェンマイ大学への海外実習の際の宿泊費の一部を本基金から助成しました。

2019年度活動報告より

早稲田大学先進理工学部へ実習留学をしました。

(当時)医学科2年生 南 俊太郎

2年生という早いうちから研究に触れ、本当に貴重な経験ができました。臨床医という選択肢だけでなく、実際に基礎医学研究に触れてみて、重要性がわかりました。今回の経験が将来について考えるとてもいいきっかけになったのではないかと思います。

学外での研究実習に参加を悩んでいる方へ、私は研究室を選ぶ際に研究内容を重視しました。楽をしようと思うのではなく、自分の興味のある分野の研究室を選ぶと、この2ヶ月間とても楽しくなると思います。この短い期間をうまく使って研究についてよく学び、そしてたくさんの人と交流し、有意義な時間を過ごしていただければと思います。

最後に、このような貴重な経験を可能にしてくださった「未来への飛躍」基金には深く感謝しております。今回学んだことを生かしてこれからの勉強に生かしていきます。



▲前列右から2人目が南さん

2018年度活動報告より

Sidra Medicineへ研究実習留学しました。

(当時)医学科2年 小澤 享平

この度は研修先への渡航や滞在において多大なるご支援をいただき、大変ありがとうございました。「未来への飛躍」基金のおかげで留学を決断し、自分の本当にやりたいことをすることができました。今回関わったプロジェクトは始まったばかりで被験者となる患者さんの募集や、実験に必要なキットの検討をしている段階で、新しくできたラボだからこそ経験できることや学べることもあり、大学ではできない経験がたくさんできたと思います。医学研究なしで現在のような医療は存在し得ません。2年生という早い段階で医学研究について学ぶことができたのは、サポートいただいた教授や先生方、大学関係者のすべての方々のおかげです。心から感謝しております。

後列右から2人目が小澤さん▶



2019年度活動報告より

今まで持ち合わせていなかった新しい視点で、物事のとらえ方を知れた研修

(当時)看護学科4年生 服部 由貴

タイの医療体制や問題に対するコミュニティーでの活動の様子など、実際に地域に行き見学し、直接お話を聞かせていただくことができました。私にとってこれからの看護師としての人生においてとても貴重な学びと経験になりました。この経験から感じたこと、得た学びを忘れず、今後に活かし、患者やスタッフに対して真摯に向き合い寄り添うことのできる看護師を目指したいと思います。最後に、この研修にかかる費用を一部負担いただきありがとうございます。「未来への飛躍」基金があったことで、研修に参加することへのハードルが下がり、金銭面で悩むことなく研修を終えることができました。大きな発見から小さな気づきまで、とても良い経験となりました。



▲左から2人目が服部さん

2018年度活動報告より

世界中で働ける看護師になりたい

(当時)看護学科4年生 丸谷 良美

今回は、助成金による援助をいただき誠にありがとうございます。大学入学前から将来世界中どこでも働くことのできる看護師になりたいと考えていたので、援助として助成金をいただけると伺い、諦めず参加を決意することができました。この研修では、旅行では訪れることのできない病院内や、大学、その他の医療に関する施設の見学ができます。タイの医療の実際について学び、毎日英語に触れ、チェンマイ大学の看護学生の意識の高さを感じ、現在の自身の状況と向き合う良い機会となりました。費用を援助してくれた両親と大学、講義や指導を行っていただいた看護師・医師の方々、受け入れてくださったチェンマイの方々へ感謝すると共に、この貴重な経験を今後の私自身の成長と立派な看護師になるために活かしていきたいと思っています。



▼左から4人目が丸谷さん

活動事業のご報告

「未来への飛躍」基金の使途から一部ご紹介します。

03 海外留学 (ADVANCED CLINICAL ENGLISH II)

健康や医療等に関する教材を用いて、reading, writing, listening and speakingを総合的に修得するための訓練を行うもので、医学科3～6年生、看護学科を対象としたニュージーランドへの海外留学です。交通費、宿泊費等の一部を本基金から助成しました。

2019年度活動報告より

学科と学年の枠を超えたチームで、互いに補い、伸ばし、改善し合える研修

▼横たわっているのが永井さん

(当時)看護学科1年生 永井 清香

このメンバーで参加できたことを非常に感謝しています。大学内で活躍できる学生でありたいという気持ちを抱きながら入学したこともあり、今回参加することで、英語を用いて発信できる看護師を目指したいという気持ちが一層大きくなりました。参加するためには、基本的な医学的知識は必要であると思いますが、低学年で知識不足だという理由で参加を諦めることは非常にもったいないです。ぜひ、低学年の方には英語力を磨き、それが自分の強みであるということを主張し、積極的に挑戦してほしいと思います。また、私にとって「未来への飛躍」基金の存在があったからこそ、この貴重な経験に参加する決断を下せました。今後の看護師というキャリアに対する考えに大きな変革をもたらしたと言えます。本当にありがとうございました。



▼手前左が漆谷さん

2018年度活動報告より

自分の知識を活かし、実用的な場で確認できる研修

(当時)医学科3年生 漆谷 哲

実際の環境で生身の人間を相手にした時に動じない精神的な準備と、非日常的な環境でチームとして働いていくことの大切さを学ばせていただきました。医学的な知識が定着しているか自信がない状態で、十分に学ぶことができるか不安でしたが、いざ行ってみると自分の知識を活かせることが多々あり、自信をつけることができました。研修のすべてが英語で行われているため英語力の向上を図ることができ、現地の医療のことも直接的に知ることができます。今回、海外研修に参加させていただき感謝の気持ちでいっぱいです。他では得られないような経験をさせていただきました。ありがとうございました。



社会とのつながりへの支援



●健康長寿イベントへの助成

奈良医大の教員と学生がショッピングモールで開催した、地域の方々に奈良医大を身近に感じてもらうための健康イベントへ助成を行いました。健康長寿を目指すためのストレスチェックやロコモ・メタボの健康チェックなどに加え、子どもも楽しめるよう診察体験や救急車見学を実施し、医療に興味をもつきっかけづくりができるようなイベントが行われました。

クラブ活動への助成

クラブ棟の老朽化対策や環境整備に助成をしています。クラブ棟の改修といった大規模なことから、クラブ棟のコンセント増設やバッティングゲージの購入、クラブ用洗濯機の買い替え、更に設備だけでなく「西日本医科学学生総合体育大会(西医体)」への参加費の助成も行っております。

クラブ活動は学生生活を有意義にするだけでなく、豊かな人間性や社会性を培うことにおおいに役立ちます。基金ではこれからも学生のクラブ活動を応援していきます。



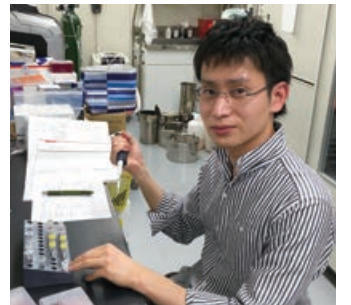
04 大学院医学研究科博士課程 入学者に対する奨学金

優秀な大学院博士課程修了者及び学位取得者を広く社会に、より多く輩出することを目的とした奨学金制度です。入学科及び授業料相当額を本基金から貸与しました。

2019年度活動報告より

病原体・感染防御医学教室 三須 政康

私は現在、本学の病原体・感染防御医学教室に所属しながら国立感染症研究所に国内留学し、ウイルス感染症の研究をしています。初期臨床研修修了後、大学院に進学をしたため、学費への不安が少なからずありました。しかし、本奨学金の貸与により、経済的な不安を抱えることなく研究に没頭する毎日を送ることができております。また多くの方のご指導・鞭撻により、本年度から日本学術振興会の特別研究員にも採用されることとなりました。今後も真摯に研究に取り組んでいく所存です。そして将来的には、医師そして研究者として患者に還元可能な臨床応用を見据えた研究を行い、社会貢献していきたいと考えております。本基金から多大なるご支援いただきありがとうございます。



2017年度活動報告より

微生物感染症学講座 堀内 沙央里

本基金によるご支援をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。誠にありがとうございます。私は開発途上国の感染症制御に関わる研究に携わっていた経験があり、そこで培った視点を生かした研究をしたいと思い微生物感染症学講座に入学いたしました。現在は、本学の公衆衛生看護学領域で教員をさせていただきながら同講座に社会人大学院生として所属をさせていただいております。看護学科の上司には修学や研究活動において多大なる理解と支援をいただくとともに、同講座においては高度な専門知識や技術を持ち合わせた先生方に知識や実験スキル等について丁寧な指導を密にいただき、優れた環境で充実した日々を送っております。現在は県内において、世界的にも十分解明されていないピロリ菌の感染経路の解明や、臨床検査法の開発に関する研究に取り組んでおります。将来は公衆衛生活動と臨床現場の橋渡しができるような研究者になり、この活動を広く普及して行きたいと考えております。

